

相馬鹿島町農業協同組合（JA相馬鹿島町）



代表理事組合長	鈴木 和比古	役員数	21名
所在地	〒979-24 相馬郡 鹿島町横手字川原185-1	理事	17名（うち常勤 1名）
	☎0244-46-5111	監事	4名
設立年月日	昭和40年5月10日	職員数	84名（男56名 女28名）
		臨時	15名

I 地区の概況

当町は、相馬地方のほぼ中央に位置し、北緯37度43分、東経140度57分にあつて東西18km、南北8km、総面積108km²である。西方は阿武隈高地の高地帯で海拔540m、飯舘村と接している。東方に向かうに従い低くなり平坦地を形成し、太平洋と境する。

真野川が、町の中央部を東流し、南北双方とも阿武隈高地の支脈によって区画を明確にし、北は相馬市、南は原町市に隣接している。海岸は単調な南北線で比較的遠浅である。

気候は、東日本型海洋性気候で、年平均気温12.5℃、降雨量1335mmと比較的温暖な気象条件に恵まれ、積雪も山間部を除いて殆どない。夏は臨海地帯のため30℃を越えることは少なく、日照率も60%と高く、住むには凌ぎやすい地域である。

鹿島町の歴史は古く、遠く古墳、縄文時代から連綿として続いており、昭和29年に旧鹿島町、八沢村、真野村、上真野村の1町4か村が合併し、今日に至っている。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

当町は、年々農家数が減少する傾向にあるものの、現在も純農村地域であり、町の産業発展の歴史は農業なканずく基幹作物である水稻を中心に展開されてきた。と同時に、敗戦の混乱期に産声をあげた農協の事業発展の歴史でもあった。

当町も例外なく、生産力の増大に推進的役割を担ってきたのがほかならぬ農協の組合員であり、占領下の食糧難時代に農地改革により誕生した自作農家であった。占領時代には米を始め穀類の生産拡大に努め、その後、昭和20年代半

ばの水稻の保温折衷苗代や新農薬の開発等によって生産力は飛躍的な発展を遂げるに至った。

しかし、当町農業に大変革をもたらしたものは30年代の高度経済成長政策の一環として制定された農業基本法による大規模構造改善事業であった。いちはやく水田の基盤整備がなされ、トラクターを始めとした大型農業機械設備が導入され、省力化が促進された。その反面、兼業化に拍車をかける結果となったことも見逃せない事実であった。更に40年代は米の過剰基調が顕在化し、総合農政の名のもとに複合経営の確立を目指して、養豚を始め麦、加工トマト、きゅうり等の団地化に、合併農協が大いに力を発揮した。その頂点にた

ったのが養蚕事業の天皇杯受賞であった。しかし、現在、米以外では価格低迷等によって梨等の一部の品目にその面影を残すのみとなった。

時代は平成に変わり、大不況のまっただ中で5年度は戦後最悪の凶作となり、唯一の自給品目の米まで輸入自由化攻勢に屈した。この最大の転換期に、町農業の存続を賭けてントリーエレベーターの建設に全力を傾注しているところである。

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

年次		25	35	40	50	60	2
項目							
総農家戸数	(戸)	1,914	1,974	1,916	1,756	1,620	1,364
	うち専業(戸)	1,183	843	399	160	83	60
	I種兼業(戸)	421	769	878	775	384	196
	II種兼業(戸)	310	362	639	821	1,153	1,108
経営耕地面積	(ha)	2,412	2,477	2,511	2,640	2,610	2,466
	うち田(ha)	1,740	1,785	1,851	2,104	2,146	2,085
	畑(ha)	456	379	320	188	167	191
	樹園地(ha)	216	313	340	348	297	190
	うち桑園(ha)	195	263	287	317	267	155
収穫面積	稲(ha)	1,700	1,772	1,836	1,990	1,923	1,721
	麦類(ha)	376	236	130	1	36	114
	野菜類(ha)	153	355	315	76	152	213
	果実類(ha)	20	50	51	27	28	34
	飼料用作物(ha)		32	29	51	58	103
	たばこ(ha)			33	13	14	6
飼育頭羽数	乳用牛(頭)	53	151	250	219	245	236
	肉用牛(頭)	670	863	992	360	402	223
	豚(頭)	143	321	1,829	1,320	1,722	730
	にわとり(千羽)	4	8	11	1		
	ブロイラー(千羽)			1	1	1	

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

2 経営の推移

当JAは今や総資本180億円を超える相馬地方JAの中でもトップクラスの経営規模を有するに至っている。それはとりもなおさず、激動の時代を生き抜いてきた組合員の協同組合運動の歴史であった。と同時に、遠く産業組合時代から組合経営に心血を注がれた多くの役職員の努力の結晶でもあった。

時代の変遷の中で、今日の当JAの大きな礎を築く一大契機となったのは、高度経済成長が終焉を告げつつあった昭和40年5月における町内4農協の大同合併であった。これによって財

務基盤が強化され、営農指導を中核とする現在の事業運営体制が確立された。しかし、その前途は必ずしも洋々たるものではなかった。特に固定資産の整備拡充による財務の悪化であったが、反面事業活動は米を中心とした販売・購買事業が順調な伸長を遂げ組合運営を支えていった。

その後、農政の大転換に呼応して、当JAも複合経営の確立を目指して農業倉庫、共同選果場等の集出荷施設の整備に取り組んでいった。その結果、農家所得の向上と相まって信用・共済事業が飛躍的に成長し、平成元年度には貯金残高100億円、長期共済保有高1000億円の大台

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

年度			24	30	合併時 (40. 5. 10)	40	50	60	5
項目									
正組合員戸数(戸)			1,676	1,996	2,039	1,909	1,898	1,890	1,881
准組合員戸数(戸)			225	206	324	503	545	663	688
資 産	余 裕 金		16,015	54,791	310,266	289,404	1,571,990	4,686,480	11,481,213
	貸 出 金		8,456	58,555	571,077	617,988	2,217,650	4,143,154	4,760,508
	その他流動資産		9,160	82,532	89,722	139,652	814,485	1,415,130	911,836
	固 定 資 産		2,081	14,612	90,315	113,486	339,411	695,507	596,541
	外 部 出 資		722	11,073	25,362	22,728	81,305	159,264	263,326
負 債 及 び 資 本	貯 金		30,260	152,453	773,996	814,408	3,845,728	8,468,628	15,299,442
	借 入 金		662	36,001	190,567	211,586	444,885	1,010,252	719,601
	そ の 他 負 債		2,967	13,242	74,995	99,077	508,048	1,144,331	1,271,012
	出 資 金		2,473	18,152	42,886	57,431	183,179	299,807	439,454
	積 立 金		10	532	2,913	547	25,312	131,825	256,822
主 な 事 業 実 績	剰 余 金		62	1,183	1,384	209	17,689	44,692	27,093
	販 売 取 扱 高		18,635	342,237	541,865	774,637	2,591,631	3,063,529	1,995,091
	うち 米 穀			327,780	493,351	682,368	1,975,686	2,528,709	1,583,109
	青 果 物			11,097	16,297	32,770	123,588	165,273	158,218
	うち 梨					19,117	66,136	102,270	70,146
	畜 産 物			3,360	31,977	58,762	463,977	294,167	129,664
	うち肉 豚					20,373	247,426	171,894	59,954
	購 買 取 扱 高		18,081	67,349	113,707	167,496	1,107,699	1,647,415	1,799,380
	うち 生産資材			63,987	107,466	158,647	868,712	1,123,230	1,001,990
	生活資材			3,362	6,241	8,849	238,987	524,185	797,390
	長期共済保有高				1,107	1,392	14,000	80,961	124,519

(注) 1 合併時は最新合併時の始期 他は年度末 合併以前の年度は合併参加JAの合計
2 24年度は上真野村農協の資料不明につき 鹿島町農協、八沢村農協、真野村農協の合計

を突破した。

しかし、その過程では度重なる冷災害に悩まされてきたが、その都度組織の英知を結集して事業の伸長を図ってきた。また、合併以来、今日のバブル景気の崩壊を予知したかのように、固定資産の整備統合を始め電算システムの導入や出資増強運動などに取り組んできた。

平成大不況の下で米の市場開放、金融自由化等々の規制緩和は組合経営に大きな打撃をもたらしているが、当J Aでは既存事業の活性化と併せ葬祭事業、食肉加工販売を主とする協同会社の設立、更にはカントリーエレベーターなど新規事業をも導入し、組合員本位の事業活動に積極的に取り組んでいる処である。

3 合併前の町内4農協

J A 相馬鹿島町の前身は、鹿島町農業協同組合、八沢村農業協同組合、真野村農業協同組合、上真野村農業協同組合である。昭和23年それぞれの農業会の資産を受け継いで誕生した。

当J Aの発展過程を3つの時期に分けてみる。

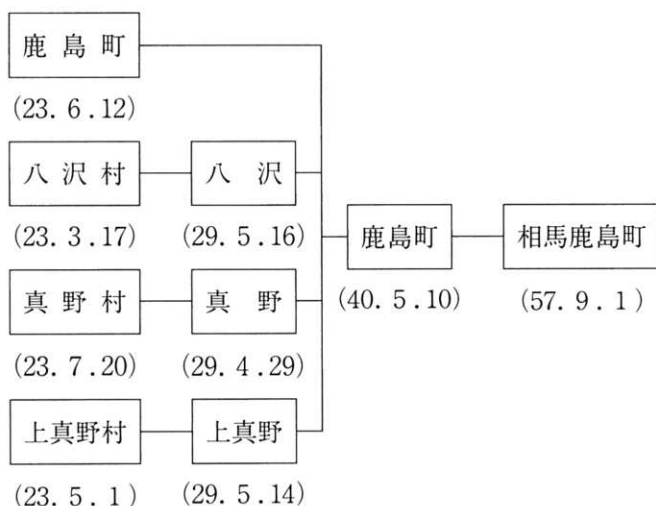
第1期は、戦後農村の民主化と農業の近代化

を担って発足した町内旧4農協がそれぞれの地域性を活かした独自の事業活動を展開した後、40年に大同合併を果たすまでの時期であった。同時にこの時期は、日本が戦後の混乱期を比較的短期間に乗り切り、年率10%台の高度経済成長を成し遂げ一気に先進国にかけ上がった時期でもあった。この経済復興の土台となったのはほかならぬ組合員であり、農地改革によって誕生した自作農家であった。

この時期、それぞれの農協が共通して取り組んだ課題は、戦後の食糧難を克服するため米を中心とした増産運動に心血を注ぐ一方、財務の脆弱性を補うべく増資運動を展開したことであった。それぞれの農協の一端を紹介すると、鹿島町農協の信用事業を中心に据えての貯蓄運動や観光旅行など、八沢村農協の水田土壌調査の実施に基づく配合肥料の開発や食肉加工場を拠点とした畜産事業の振興など、真野村農協の信用事業を中心とした堅実経営のもとでの二毛作の奨励や刈加工事業など、上真野村農協の梨・里芋の産地化や有線放送事業、ライスセンターの建設など枚挙にいとまのないほど進取に富んだ事業活動を展開していた。

また、この時期は戦後農政の一大転換期でもあった。いわゆる他産業との所得格差の是正と大規模自立農家の育成をめざし、農業の近代化をもたらした農業基本法農政であり、これに対応した農協合併助成法の公布であった。これを契機に町内旧4農協がいくつかの紆余曲折を経て合併に至ることとなった。因みに、合併直前の39年度の経営実体をみると、貯金残高は農協全体で発足時の30倍以上にも当たる8億円にも拡大し、販売・購買事業は7～8倍以上の6億円を超える取扱高となっており飛躍的な

図表3 合併等の経緯



図表 4 合併参加農協の概要

組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
鹿島町	鎌田 清信	823	11	16
八沢	西畑文太郎	894	10	26
真野	桜井 義重	624	10	18
上真野	大谷 正信	1,235	12	23

発展を遂げていたのであった。

4 新生合併農協の草創と拡充

第2期は、新生合併農協の発足時から現在の経営基盤がほぼ確立される昭和50年代半ば頃までの日本経済が高度経済成長から第1次・第2次石油ショックを経て低成長経済に移行するまでの時期でもあった。

合併農協は発足と同時に仮事務所を設置し、当初は組合員との結合を重視した支所重点の事業運営に当たったが、45年の新事務所開設と同時に合併のメリットを活かした本所集中事業運営への転換を図った。折しも、高度経済成長による食生活の高度化・多様化から米過剰が顕在化しつつあり、総合農政が展開され米以外の選択作物の拡大と複合経営の確立に合併農協が真価を如何なく発揮した。この時期、共同選果場、ナメコセンター、農業倉庫等の集出荷施設の新設整備、集約購買倉庫の新設による配送と事務処理の一元化、独自の電算システムの導入によつての事務処理の効率化、Aコープ・サービスセンターを始めとする生活関連事業施設の拡充等現在の事業基盤がほぼ確立された。これに伴って、農協の各事業は合併時に比較すると、貯金は50年代に年間2ケタ台の伸長率を示し9倍以上の70億円にも達しており、15倍以上にも及ぶ17億円の取扱高となった購買事業、職員のダイナミックな一斉集中推進による共済事業等々

驚異的に拡大し、自己資本も6倍以上の13億円に拡充していたのであった。

5 経営基盤強化と今日の経営危機

第3期は、組合員の負託に応え得る事業関連施設がほぼ整備され、石油ショック後の低成長経済に対応した経営管理機能の強化に本格的に取り組んだ時期であり、その後の平成バブル経済の崩壊とともに経営収支の確保が困難を極めつつある今日に至るまでの時期である。

この時期、低成長経済に突入するやいなや、昭和55年から3年連続の大冷害に見舞われ、事業伸長も鈍化してきた。これをうけて、農協事業本来の協同活動運動の強化のため地域農業振興方策と経営刷新方策に取り組んだ。特に財務の健全化と経営効率化を期し連続して増資運動を展開し自己資本の充実に努めてきた。また、合併以前の遊休施設の活性化と施設の集約化に取り組む一方、職員の意識改革と労務能率向上を図るため職員研修を計画的に実施した。更に信用事業のオンライン化と平行して独自の電算システムの開発にも取り組んだ。その結果、合併時110人を越える正職員数が現行の90人体制に確立されたのもこの時期であった。このような経営内部に目を向けた地道な努力が実を結び、平成元年度に念願の貯金残高100億円、長期共済保有高1000億円の大台を突破した。しかし、東西冷戦の終結、自民党一党支配体制の崩壊など波瀾の幕開けを予測させた平成時代に変わり、バブル経済崩壊後の不況のまっただ中で超低金利時代に突入した。農協経営の根幹である信用事業は大幅な減益を余儀なくされ、加えて戦後最悪の大凶作と米市場開放は、農家経済はむろん農協経営の危機感を高めている。

Ⅲ 年 表

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
23年			家畜市場兼家畜管理所開設（八沢） （初年度取扱 和牛538頭、緬羊178頭）
3. 17	八沢村農業協同組合発足	33年	
5. 1	上真野村農業協同組合発足	2. 18	鹿島町農事放送連設立
6. 12	鹿島町農業協同組合発足	3. 24	一日皆貯金運動実施（農林中金理事長賞 大蔵大臣日銀総裁賞受賞）（鹿島）
7. 20	真野村農業協同組合発足	3. 31	事務所新築（真野）
24年		4. 1	鹿島町農事放送農協連合会放送開始 信連 貯蓄優秀表彰受賞（鹿島） 上真野里芋採種組合結成（上真野）
	全水田の土壌断面調査実施（八沢） （独自の八沢配合肥料普及推進）	34年	
25年		3. 25	農事放送農協連に加入（上真野）
4. ～	増資特別 2 ヶ年運動推進（鹿島、八沢、 真野、上真野）	6. 26	全共連 共済優績表彰受賞（上真野）
26年		35年	
	優良種豚登記豚生産組合結成（八沢）	6. 30	全共連 共済優績表彰受賞（八沢） 貯蓄運動として第 1 回目の観光旅行実施 （八甲田山と十和田湖）（鹿島）
27年		36年	
3. 31	26年度末出資金実績 鹿島町1,764千円 真野村2,802千円 八沢村2,302千円上真野村2,257千円		かます加工工場建設（真野）
5. 21	貯蓄優秀農林中金理事長賞受賞（真野）	37年	
7. 26	鹿島厚生病院開院	5. 18	優良農業倉庫全販連表彰受賞（八沢）
28年		5. 29	貯蓄優秀農林中金支店長賞受賞（上真野）
	食肉処理場建設（八沢） 婦人部結成（鹿島） 4 農協による肥料共同購入実施	7. 6	全共連 共済優績表彰受賞（上真野）
29年		9. 12	全共連 共済優績表彰受賞（八沢・真野）
3. 31	鹿島町・八沢村・真野村・上真野村が町 村合併して鹿島町となる	12. 15	農協大会優良農協表彰受賞（真野） 農業基盤整備事業実施される
4. 29	真野村農協 真野農協と名称変更	38年	
5. 14	上真野村農協 上真野農協と名称変更	5. 31	経済連 系統利用優秀表彰受賞（八沢） 養蚕部会設立（真野）
5. 16	八沢村農協 八沢農協と名称変更	39年	
30年		3.	ヘリコプター遊覧飛行実施（鹿島）
4.	農産物販売代金の 5 分貯金積立実施（真 野）	6. 10	全共連 共済優績表彰受賞（八沢・真野）
9. 1	町指定金融機関としての業務開始（鹿島） 烏崎農業倉庫建設（真野） 事務所改築（鹿島） 貯蓄成績優良組合 3 年連続表彰受賞（真 野）	6. 12	全共連 共済優績表彰受賞（八沢・真野）
31年		11. 2	4 農協共同経営の給油所・農機具修理工 場落成 事業開始
7. 13	全共連 共済優績表彰受賞（上真野） 共同集荷所・麦類共同乾燥施設建設（真 野） 梨（長十郎）生産販売体制の一元化（上 真野）	11.	ヘリコプター搭乗会実施（真野） ライスセンター建設（上真野）
32年		40年	
4. 1	有線放送電話事業開始（上真野）	5. 10	鹿島町農事放送連解散（新農協に引継）
		5. 10	鹿島町・八沢・真野・上真野の 4 農協合 併して新生鹿島町農業協同組合発足
		5. 27	鹿島町農事放送農協連合会 全国農事放 送優秀施設表彰受賞
		7. 24	寺内果樹共選所落成
		9. 1	農業振興事務所開設

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
12. 11	米集荷 10万俵達成	12. 15	真野養蚕部寺内支部天皇杯受賞
41年		49年	
5. 6	本所事務所を公民館に移転	2. 25	郡内農協編成 九州団体旅行実施
5. 12	桜井義重組合長 厚生連常務就任	3. 2	旧八沢支所焼失
8. 22	中央果樹選果場完成	8. 11	くみあいマーケット開店
12. 12	サービスセンター拡張工事着工	50年	
42年		8. 20	合併10周年記念式典
7. 8	果樹共選機増設	11. 5	余り米販売対策陳情運動展開
9. 25	水稻長雨穂発芽対策県陳情	11. 18	L P ガス格納庫完成
12. 29	農業倉庫米11万2800俵保管一部下屋利用	12. 9	有線放送事業廃止決定（回線雪害）
43年		51年	
5. 28	経済連 系統利用優秀表彰受賞	5. 20	共同乾燥調整施設完成（北海老地区）
7. 23	豚コレラ大発生	6. 22	集約購買倉庫・給油所・農機具修理工場等諸施設完成
9. 12	全共連 共済優績表彰受賞	8. 9	航空防除開始
11. 11	上真野支所・準低温農業倉庫落成	9. 1	銘柄米（コシヒカリ）推進部落会開催
12. 24	コンピューター（NEAC1240超小型）導入 独自の完結型電算システム開発	11. 13	第1回農協まつり
44年		52年	
1. 10	ナメコセンター落成	3. 25	田原口稔組合長 厚生連常務就任
7. 16	本所事務所落成祝賀会	4. 21	指導広報車4台配置（営農指導強化）
11. 1	農事放送農協連の有線放送施設処分決定	6. 8	寺沢正八 県農業賞農林水産大臣賞受賞
45年		11. 14	サービスセンター管理棟完成
2. 1	本所窓口開設（八沢支所本所に移転）	11. 18	第26回県農協大会優良農協表彰受賞
2. 25	全国5兆円貯蓄推進運動優良表彰受賞	53年	
5. 1	第1次米生産調整実施（割当目標285ha）	2. 22	郡亀清代表監事県監事協議会長表彰受賞
12. 12	町農政問題懇談会開催される	3. 31	第1回通常総代会
46年		6. 12	宮城県沖地震（共済支払1400万円）
5. 17	豚肉パック詰め生協提携販売開始	8. 31	畜産環境保全集落郡育成事業の堆肥舎・糞尿貯留槽完成
7. 13	果樹共選場上棟式	10. 20	麦作集団栽培130ha実施
8. 25	農協学習会開催	12. 29	農協創立30周年記念特別貯蓄運動推進（目標額61億円突破）
11. 16	臨時総会（稚蚕共同飼育所・食肉センター設置）	54年	
11. 24	農協学習会開催（婦人病についての講演会）	5. 23	全共連 共済優績表彰受賞
49年		10. 26	特産部会県きのか祭で金賞（福島民報社長賞）受賞
2. 28	第1次増資5か年計画運動終了（出資総額1億828万円）	55年	
4. 16	第7回通常総会（第2次増資5ヶ年計画）	3. 11	加工トマト集団栽培始める（南海老地区）
5. 16	稚蚕共同飼育所落成	5. 27	経済連 系統利用優秀表彰受賞
7. 22	電化ショー・農機具展示会（～23）	5. 28	田原口稔組合長 農協五連副会長就任
48年		8. 5	鹿島町異常気象対策本部設置
2. 12	加工トマト共同育苗ハウス建設工事着工	8. 30	集落農業倉庫及び関連施設完成
3. 13	田植機講習会	11. 22	合併15周年記念式典
5. 10	但野喜一 県農業賞受賞	56年	
8. 30	寺内果樹共選所運営廃止	5. 25	田原口稔組合長 農協五連常任監事就任
11. 8	オイルショックによる石油類緊急対策検討	6. 5	武田幸三 県農業賞農林水産大臣賞受賞
		6. 28	不順天候対策室設置（指導会等実施）

年 月 日	主 な 事 績	年 月 日	主 な 事 績
11. 8	経済連 優良婦人部表彰受賞	5.21	全共連 共済優績表彰受賞
57年		12.25	原料野菜供給安定対策事業育苗ハウス新設 カットキャベツ契約栽培に取り組む
2.28	農機具修理工場増築及び農機具格納庫建設工事完了	63年	
5. 6	桑折賢常務農業功労者県知事表彰受賞	6.21	全共連 共済優績表彰受賞
6. 7	葬祭事業開始	8.27	金融オンライン端末機更新
7.31	農協ペリカン宅急便取扱開始	9. 9	共済オンライン端末機新設
8. 3	年金友の会創立総会	9.30	異常気象対策本部設置
9. 1	相馬鹿島町農業協同組合と名称変更	12.21	駅前支所新設
12.18	57年産米災害資金設定	元年	
58年		4. 8	第12回通常総代会（常勤理事1名体制）
2.21	信用事業オンラインシステムスタート	5. 1	上真野支所 C D 設置
3.24	経営刷新強化対策委員会（経営刷新強化3ヶ年計画設定・固定資産整備基本構想実行）	8.24	ワープロ教室開講
5.20	全共連 共済優績表彰受賞	10.3	青果物価格補償制度創設
7. 1	職員定年延長（年金支給年齢スライド）	2年	
8. 1	全職員4週5休就業体制実施	2.28	長期共済保有高1000億円の大台突破
10.31	梨出荷販売額1億円突破	6.21	全共連 共済優績表彰受賞
11.12	第8回農協祭第1回ゲートボール大会	8. 8	役場前にA T M 開通
59年		8.20	第1回組合長杯少年野球大会
2. 4	農業振興対策委員会（地域農業振興計画）	9.12	購買事業 県農協電算システムに移行（自己完結型電算システム廃止）
3. 1	電算システム拡充（三菱メルコム導入）	11.24	合併25周年記念式典
4.28	固定資産整備調査特別委員会発足	12. 1	食材宅配事業スタート
5.21	全共連 共済優績表彰受賞	3年	
8.13	為替業務開始	5. 8	協同会社（株）サンシーフーズ設立
9.29	合併20周年記念誌編纂委員会発足	7.18	宅建プロジェクトチーム発足
10.13	新農業倉庫完成	8. 3	燃料課・生産資材課の土日祝日営業スタート（4週7休就業体制）
12.31	米大豊作 集荷実績13万3900俵	11.14	田原口組合長 黄綬褒章受章
60年		11.26	C I 推進運動スタート
3.14	農作業受委託部会発足	4年度	
3.14	J R 鹿島駅切符受託販売開始	2.24	県内 J A Q C 発表大会にて優勝
6.13	西一信 県農業賞農林水産大臣賞受賞	3.25	J A バス導入
6.20	イネミズゾウムシ発生調査	3.31	鹿島駅切符受託販売廃止
11.15	合併20周年記念式典	8.20	果樹選果機更新
12. 3	但野秀明 県まゆ生産改善協議会農林水産大臣賞受賞	5年	
12.18	A コープかしま（生活センター）完成	4.11	第16回通常総代会（大規模乾燥調整施設建設）
61年		5.20	J A 全共連 共済優績表彰受賞
1.18	第1回Q C 活動発表大会	6.16	経営理念・職員行動指針決定
1.31	合併20周年記念沖縄旅行実施（250名参加）	8. 6	冷害対策本部設置
5.27	経済連 系統利用優秀表彰受賞	8.14	第1回イモチ病一斉防除（農薬無償配付）
8.16	鹿島駅前にA T M 開通	9. 4	第2回イモチ病一斉防除（農薬無償配付）
8.16	台風10号直撃 特別資金等被害対策実施	9.27	江垂地区宅地分譲開始
11.19	貯金残高100億円突破	10.13	米初検査（例年より大幅遅れ）
62年			戦後最悪の大凶作 作況指数48
5.19	田原口稔組合長 農協五連副会長就任	12.14	理事会（カントリーエレベーター建設）

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組 合 員

()は戸数

正 組 合 員		准 組 合 員		合 計	
個 人	法人	個 人	団体	個 人	法・団
3,364 (1,881)	2	828 (688)	16	4,192 (2,569)	18

2 役 員 及 び 参 事

代表理事組合長	鈴 木 和比古	理事 大 越	昇
理事 佐 藤 光 威	理事 桑 折	理事 松 崎 宗	馨 雄
理事 早 川 勇	理事 根 本 功	理事 館 野 幸	夫
理事 北 山 春 夫	代表監事		
理事 天 野 有 光	中 里 敬 久		
理事 榎 内 忠 三	監事 大和田 為 易		
理事 三 浦 重 光	監事 今 野 光 喜		
理事 但 野 弘 一	監事 山 田 福 高		
理事 小 川 昌 之	参事 森 義 光		
理事 田 村 啓 一			
理事 田 村 信 幹			
理事 清 信 幹			

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
56	28	84	7	2

4 協 力 組 織

名 称	代 表 者	会 員 数
農事組合長会	佐 藤 甲 治	40組合
婦人部	大 畑 サ ト	320
農協青年連盟	百 井 芳 見	65
若妻部会	遠 藤 文 子	90
青色申告会	山 田 福 高	31
農作業受委託者 協議会	蒔 田 宗 義	47
年金友の会	草 野 肇	1,490
旅行友の会	井 上 宗 雄	36

5 生 産 部 会

名 称	代 表 者	会 員 数
稲作部会	佐 藤 甲 治	1,881
果樹部会	長 沢 忠 人	42
特産部会	猪 狩 亘 隆	23
土の会	今 野 信 輝	12
和牛部会	大 谷 保	70
そさい部会	但 野 賢 二	80
養蚕部会	寺 沢 正 八	80

6 主 な 施 設

名 称	所 在 地
本 所	横手字川原185-1
駅前支所	鹿島字御前の内26
真野 ヶ	江垂字女房内58-1
上真野 ヶ	浮田字野中120
果樹共選場	横手字北畑11-1
共同乾燥調整施設	南海老字迎畑16
購買倉庫 (生産資材課)	横手字川原185-1
給油所	鹿島字中町4-1
(株)サンシーフーズ	〆字上沼田120-1
農業倉庫	〆字鶴田13・14
農機具修理工場	〆 〆 8-1
Aコープかしま	〆字御前の内152
生活センター (生活課)	〆 〆
準低温農業倉庫	〆字中町5-1
農業倉庫	〆字鶴田11・12
ライスセンター	浮田字野中147

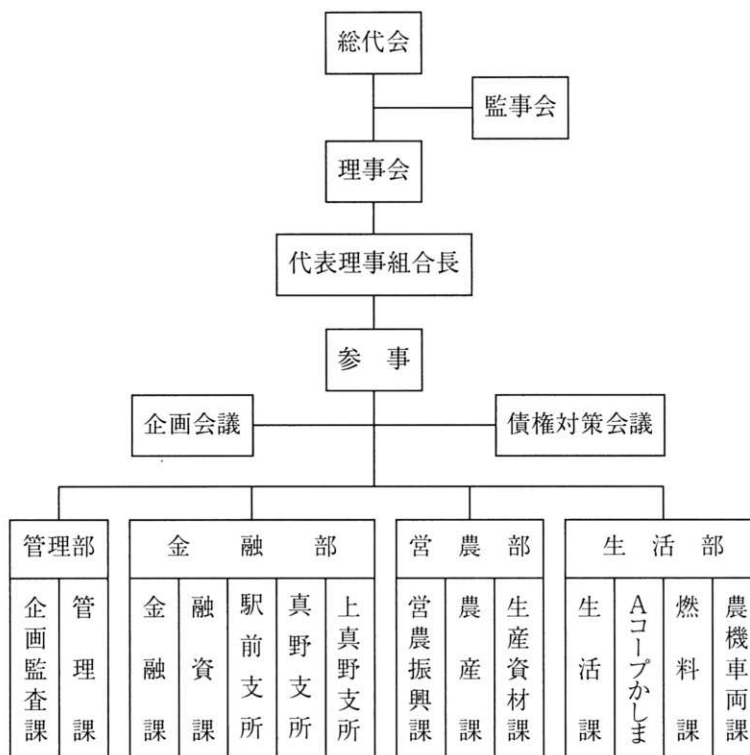
7 歴 代 組 合 長 ・ 常 勤 理 事 ・ 参 事

組 合 長	常 任 理 事
40～44	桜井 義重
44～47	大谷 正信
47～5	田原口 稔
5～	鈴木和比古
	鎌田 清信
	西畑文太郎
	桑折 虎雄
	遠藤 昌勝

常 務 理 事	
40～44	大谷 正信
40～41	桑折 賢
44～47	田原口 稔
47～49	桑折 賢
49～50	鈴木 猛
50～59	桑折 賢
59～2	大塚 信一

参		事	
40～44	田原口 稔	55～60	鈴木和比古
44～45	玉川 軌六	60～63	松崎 宗雄
45～51	浜名健次郎	63～	森 義光
52～55	草野 肇		

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

鹿島町農協

23～24	田村 亀八	32～36	斉藤 長治
24～29	佐藤 安信	36～40	鎌田 清信
29～32	桑折 賢		

真野農協

23～25	鈴木 宗義	26～40	桜井 義重
25～26	田村 美		

八沢農協

23～40	西畑文太郎
-------	-------

上真野農協

23～24	多田 慶	29～32	紺野 栄
24～29	大谷 正信	32～40	大谷 正信